



編集・発行 邑楽町役場企画課  
〒370-0692 (住所記入不要)  
☎ 0276-88-5111 (代表)  
☎ 0276-47-5007 (企画課直通)  
☎ 0276-89-0136  
URL <http://www.town.ora.gunma.jp>  
E-mail [koho@town.ora.gunma.jp](mailto:koho@town.ora.gunma.jp)

邑楽町携帯サイト  
2次元コード対応の携帯電話は、右のコードをご利用ください。読み取りができない場合はURLをご入力ください。  
携帯用URL <http://www.town.ora.gunma.jp/k>



〈第二十八回〉

若い人たちに語り継ぎたい、  
次の世代に残しておきたい。  
貴重な話をお届けしますー。

## あすへひとこと

「邑楽町の昔ばなし」より

### 谷中の子育て観音



地元の人々に愛され続ける谷中の「如意輪観音(によいりんかんのん)」

延元三年(一三三八)閏七月、新田義貞は越前足羽(福井市)で足利方の武將、斯波高経の軍に破れて戦死しました。  
このとき、義貞の家来で中野城主だった中野景春も、義貞のあとを追って自ら腹を切った。景春の妻は、髪を落として尼となり、妙言法尼と号して亡き夫の霊の供養に励みました。  
それから三年後の興国二年(一三四一)の三月、妙言法尼は夢枕に、「西ノ谷の沼尻の辺りに、景春の兜の守り本尊である如意輪観世音を祀るべし」という声を聞きました。妙言法尼は夢枕のお告げどおり、字押落に庵を建て、身の丈七寸(約21センチ)の如意輪観世音像を安置して、熱心に回向しました。  
それから二百年余りたった慶長三年(一五九八)頃は、庵も荒れ果てていました。谷中村の金井左五衛門や神藤外記は、これをなんとかしなければと心配していました。そこで、神藤外記は庵を谷中に移し、修復して人々の礼拝の霊場にしたということです。

さらに時が過ぎ、宝永五年(一七〇八)回国巡礼の世観という僧が、この地から西国・坂東・秩父などの観音巡拝は大変であると心配され、新たに東上州三十三番札所を作りました。そして、ここ谷中の観音様をその九番と定めました。やがて、観音信仰が盛んになると、いつしか谷中の観音様にお願いと子どもが授かる、しかも安産であると、ご利益が伝わり、谷中観音の名は次第に世間に広まりました。  
月並みは一七日ですが、縁日は一月十七日、八月十七日で近郷近在の善男善女で賑います。現在の堂宇(仏堂)は地元の信者をはじめ、多くの人々の寄進で昭和五十三年五月に落慶しました。このとき、解体された旧堂宇から明治元年に棟上げが行われたことを証する棟札が発見されたそうです。  
実はこのことは、この土地の人たちや信者の観音信仰が、いかに深かったかを裏書きしたことになるのだそうです。というのは、慶応四年の九月八日、元号が明治となりました。西暦一八六八年は慶応が明治と変わった年です。  
明治になる、ほんの半年ほど前の慶応四年三月二八日、新政府は神仏分離令を發布しました。これから世の中では仏像や仏堂、仏具などに対する破壊が猛烈な勢いで全国に広がりました。にもかかわらず、ここ谷中では観音堂を建て替えたのです。当時としては、なみなみならない覚悟で一致協力したことが分かります。  
こうした苦難を乗り越えて、今も谷中の観音様は子育て観音として、多くの人たちに深く信仰されています。

【発行】 邑楽町老人クラブ連合会 【編集】 あすへひとこと編集委員会  
平成10年12月31日発行「高齢者の語り(第六集) あすへひとこと」より



麦秋の夕暮れ  
(狸塚昭和地内)



Photo 原田隆雄(記録ボランティア)

### ひとりとこと From editors

▶一昨年から、わが家の節電対策と夏野菜の収穫にと緑のカーテンを始めました。庭に植えたゴーヤは、すくすくと育ち一年目は毎日のようにゴーヤを収穫することができました。その収穫したゴーヤは、ゴーヤチャンプルやバナナと牛乳を混ぜたジュースなど、夏場の食材として大活躍。▶しかし、昨年は、一年目のような収穫ができませんでした。同じ場所での連作は生育がイマイチとのこと。そこで今年は場所は同じですが、苗を植える前に、土を耕し肥料やたい肥などを混ぜて土壌改良を試みました。今のところ順調に育っているのですが…。今年は、一昨年のような収穫ができることを期待しています。皆さんは、この夏どんな節電対策をしますか。(藤田)



この広報誌は、自然保護のため  
植物油インキを使用しています。